

会 議 錄

1 会議名

令和 7 年度 第 7 回金谷区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

○自主的な審議（公開）

（1）自主的審議事項について

3 開催日時

令和 7 年 1 月 10 日（水）午後 6 時 30 分から午後 7 時 45 分まで

4 開催場所

金谷地区公民館 集会室 1・2

5 傍聴人の数

0 人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）

・委員： 村田会長、阿部副会長、長副会長

大瀧委員、大西委員、小竹委員、小林委員、小山委員、白石委員、

滝澤委員、星野委員、益田委員、宮越委員、吉野委員（欠席 1 人）

・事務局：南部まちづくりセンター 大島所長、小池副所長、石黒係長

8 発言の内容

【小池副所長】

・浅野委員を除く 14 人の出席があり、上越市地域自治区の設置に関する条例第 8 条第 2 項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

・同条例第 8 条第 1 項の規定により、議長は会長が務めることを報告

【村田会長】

・会議の開会を宣言

・会議録の確認：白石委員、滝澤委員に依頼

— 次第2 自主的な審議（1）自主的審議事項について —

【村田会長】

次第2 自主的な審議（1）自主的審議事項についてに入る。

事務局に説明を求める。

【小池副所長】

・資料1により説明

資料には仮のテーマが書いてあるが、まだ自主的審議のテーマが決まっていない。何をめざすのか、何が課題なのかを明確にして、テーマを決めてから、その解決策や地域協議会で何ができるのかなど、話し合っていただきたい。小林委員から補足があればお話していただければと思う。

【小林委員】

前回、皆さんからご意見いただいた項目を少し加えさせていただいて、まだまだ皆さんの思いがここに盛り込まれていないかもしれない、今後の議論の中でまた膨らませていけたらと思う。

【村田会長】

本日は、まずテーマを決めたいと思う。私たちは何をめざして自主的な審議をするのかと考えたときに、前期の委員が作成した「金谷区の地域活性化の方向性」に書いてあることではないかと思う。

正副会長と事務局で話し合ったときに、この資料に掲げてある「金谷山を中心とした人・活動・アイデアが「つながる」地域づくり」がテーマとしてよいのではないかということになった。これについて委員から順番に意見を求める。

【吉野委員】

テーマについて、「つながる」という言葉は素晴らしいが、ちょっと今までどおりすぎるような気がする。それでやってきて今までどうだったということもあると思う。現状の問題点として、私が本当にこの1か月で考えて思ったことがあって、とにかく金谷山の維持が難しい状態と伺っているので、やはり永続的に維持していく予算や仕組みが必要だと思った時に、今までの地域に密着してというレベルよりも、

人気のある公園にして人が集まつてくるような、いわゆる私が最初から言っているバズるという考え方はどうか。人気があって人が行って、そこで写真が撮れてなんかオシャレでという空間にしていかないと人は来ないだろう。

予算をかけていろいろやったけれど、結局人は増えなかつたでは困る。本当に流行らせる自信があるかといったら、どうだろうという気持ちもあるが、大きいことを言えば、長野からの玄関口。すでに長野から妙高まで今バズりが来ている。日本で注目されている、海外から注目されている。それを金谷山を通じて日本海、もつと向こうまでという、そんな大きい話になるかは置いといて、とにかく私は人気のある公園にしたいと思った。ちゃんとした言葉でテーマという一言では出せないが、そういう感じに思った。

【村田会長】

バズるという言葉は新しい言葉だ。一般的には「つながる」かと思った。

【吉野委員】

つなげるためにまず認知してもらわなくてはいけないというところにある。その部分をしっかりとプロモーションしないと、どんなに公園を充実させても地元でしか広まりを見せないということがあるともったいない。

【村田会長】

具体的に、今ここにあるテーマの一例の、金谷山を中心とした、人・活動・アイデアがバズる地域づくりと、こういうキャッチフレーズか。

【吉野委員】

今はこれが出てるが、全部魅力的で、それがソフトになってくるが、もっとたくさん出してくれればいいなと思う。何が実現化していくかわからないけれど、もっともっとアイディアを出し合いたい。私は今まで金谷山を本気で流行らせたいと、本気で取り組んできた団体がなかったと思う。それを小竹委員が命懸けでやるって言っているから、この人材、この環境をもう取り残すのはもったいない。ここで勝負をかけたいというのは、その私も小竹委員も数年後には年を取っていくので、今、バズらせたいと思った。

【小竹委員】

テーマという枠にとらわれたくない。

【村田会長】

事務局、これはテーマと言いながらも、話を進めていく中で、ひとつのキャッチフレーズのようなものがあったほうがまとめやすいという意味だが、実際やろうとする人たちは、それにこだわるというか、決められたくないという意見もあるが、その辺の見解はどうなのか。

【吉野委員】

皆さんで、ふさわしいテーマを導き出していただければよい。私の意見は抽象的すぎるが、今自分で表現できる精一杯がこれだった。

【小池副所長】

急いで決めなくても、ゆっくり皆さん思いを集めて、テーマを作っていただければよい。

【宮越委員】

金谷山エリアを中心とした金谷地区振興プラン。極めてオーソドックスな名前を考えた。なぜこのテーマにしたかというと、地域協議会で振興プランを検討するのであれば金谷区を前提としたことが必要ではないかというのが一つ。金谷山を中心としたというのは、今までの検討の経過からしてもテーマになるだろうと思った。

今後の検討をどのようにしていくかにもよるが、実施に向けた大元のプランを作るのが地域協議会の大変な役目かと思う。現実にどうやって、実行部隊をどう確保していくのだという部分になると、地域協議会だけでは結論を出せない。恐らく地域協議会が実行部隊になる、今の吉野委員の話で小竹委員が実行部隊になるというのは、仮にやったとしても無理だと思う。

組織でやっていかなければならないということを考えると、それはいずれプランをまとめた時に、じゃあそれを誰にやらせるか、どういう風にやっていくか、金をどういう風に確保していくか、そこら辺のことが見えてきた時に組織ができるてくるかなという気がする。いずれにしてもそのテーマとしては金谷地区全体をどうするかという大きなテーマの中で、金谷山エリアをどうするかというのを大きく捉える必要があるのではないかということで、こんなテーマを考えついた。

【益田委員】

「金谷山を中心とする」という言葉は入れたいとは思うが、金谷山というものがどうやったら特色が出るかということを考えたほうがいいと思う。ただ、そのやり方がちょっとわからないし、テーマをどういうふうに定めたらいいかわからない。

【星野委員】

金谷山を中心とした自然を残した魅力のある公園にしたらどうかと思っている。それと、東側の開発が全然ない。そういうことも頭に入れながら、山を歩きながら自然の中で若者たちを呼び込むイベントをもっといろいろな若い人たちと一緒にやるような、そういうテーマがいいかなと思っている。

【村田会長】

今、若者みらい会議という団体が年に数回イベントをやられている。東側というのはすぐここのことか。ここは民地なのか。

【星野委員】

民地である。

【村田会長】

市の土地ではないということか。

【小林委員】

ふるさと道の入り口からその山も民地ということか。

【村田会長】

市の土地かと思った。

【宮越委員】

ここら辺は、南葉山までほとんど民地である。市は土地を持っていない。

【小林委員】

何か権利関係とか地代とか発生しているのか。

【星野委員】

発生している。

【滝澤委員】

特にアイディアはないが、皆さん金谷山について言っておられて、金谷山活性化

プランとか活性化策とか、そんなものでまとめればいいかなと思った。

【白石委員】

金谷山のさくら千本の会が、木を植えるのは今年で終わったと新聞に出ていた。まだ、桜が咲いているのを見たことがないのでなんとも言えないが、例えば吉野の千本桜くらいにやらないと観光的なものにはならないのではないかと思う。これだけ各種団体があるので、こちらのほうでそういうテーマを作つて、活動している人たちが全体的に何かやっていけるようなものがあればいいと思うが、私自身が本質的な部分をつかめていないので申し訳ない。

【宮越委員】

さくら千本の会は、高田高校のOB会である。

【村田会長】

小竹委員、上越アクティブスポーツは、BMXがここに入っているのか。

【小竹委員】

金谷山のBMXコースでいうと、関連団体には上越バイシクル協会と新潟県BMX協会がある。金谷山の管理という部分では、上越バイシクル協会が行政から委託料をいただいて、コースの整備を行っている。

【小山委員】

テーマについてはまだ思いつかない。金谷山を取り巻く団体はこれだけたくさんある。私も以前、観光協会に関わっていた。その時からも思っていたのだが、金谷観光協会だけとかレルヒの会だけでは、なかなか力が弱いのでこれだけある組織の団体が一つに集まって、行政が中心になってそれぞれのやりたいことや自分たちの方向性について意見を出してもらったほうが早いのではないかと思う。行政が金谷山に対して取り組む必要があるのかないのか。どうしてもこれからは金がかかってくるわけだから、その必要性をまずきちんと確認したらよい。そうすると金谷山に関わる力強い団体ができるのではないかと思う。

【村田会長】

行政の担当は、観光振興課になるのか。

【宮越委員】

窓口的にはそうだと思う。

【小山委員】

今までの金谷山を見ていると、行政はやる気がない。やる気のない中でこっちで言っても前へ進まない。ある程度組織が大きくなれば力も強くなる。

【星野委員】

春日山ばかり、お金をかけていると思う。

【宮越委員】

金谷山は、ジャンプ台が撤去された時点で、市の観光振興の取り組み実施は終わっていると思う。そのつもりでこのプランを作っていないかないと、今、小山委員が言われたようにやる気があるのかと言った時に、綺麗な言葉でやる気はないと返ってくると思う。そうでなかつたら、この状態にはしておかないと。ジャンプ台はスポーツ施設だが、いろいろな意味で観光の核だった。あれを失くすという判断が事実上終わりかなというふうに私は思っていた。金谷地域の人間としては非常に寂しかった。

老朽化していて危ないというのはある。ただ、あれを補強したり、立て直すということも大事。お金の問題より需要があるという話。あのジャンプ台は、昔は価値があったが、50メートル級で、国際大会はもちろん国内大会もできない。その辺のネックはあったというふうには聞いている。要するに50メートル級を直しても、せいぜい中・高校生の練習場でしかない。私も中学校時代はここでジャンプした。中学生でようやく50メートルを最後に飛ばしてもらえるくらい。どんどんスキーパート人口が減ってくる、競技人口が減ってくる。それで私も中学校の頃には、ほとんど妙高、中郷のグラウンドのところにジャンプ台があるので、そっちで主に練習で使っていた。だから、需要がどんどん減ってきたというのは、決定的だったのかなと思う。

【村田会長】

雪が少なくなってきたのもあると思う。

【小林委員】

まず、金谷山を自主的審議できるのであれば、テーマとしては宮越委員がお話に

なったような大きな括り。金谷山を中心とした振興プランというタイトルのもとに、いくつかのものをやってもいいのかなと思う。その中で、カルタについては、カルタ単独でもやれる事業だと思うので、やってもいいのかなと思う。これから行政への働きかけもあるし、関係する諸団体との意見交換もあるし、金谷山を中心として将来的に発展させていくのかという大きなテーマについては、本当に大きなテーマなので、時間をかけて、いろいろなところとも協議をしながら、やれるところはやっているというような形で、二つに分けて進めていけばいいのではないか。

【小竹委員】

テーマというと、僕の人生のテーマでもあるが遊びである。遊びと言うと、すごく軽く捉えられることもあるし、一生懸命の反対語が遊んでいるというふうに捉えられることもある。しかし、特に子どもはそうだと思うが、みんな主体的に遊んで、遊びの中からルールがみつかったり、協調性が育まれたりとか、そういう気持ちがどんどん大きくなって、一つの人間として成長していくのかなと思う。

そういった意味で、金谷山を自然遊びのテーマパークというわけではないが、ここに来れば自然の中で遊べる、上越ならではの遊びができるというような発信の仕方をしていきたいと思っている。一般的に多分学生とかに遊び場所というと、都会に行ったほうが遊ぶ場所がたくさんある。上越は田舎だから遊ぶ場所がないと思われると思う。都会に対抗したとしても上越はバズれない。でも自然遊びという部分に視点を置けば、海も山もあって自然豊かで、人と人とも結構つながっていて、金谷山は上に登ると上越市が一望できる環境がある。

そういった金谷山の良いキーワードを集めていった上で、何かテーマというかぼんやりとしたものを作るのであれば、やっぱり遊び場にしたい。遊び場があるから、そこから文化を学ぶこともできると思うし、いろいろなところに結んで、つなげていけるのかなというはあるので、ざっくりとテーマと聞かれたら「遊び」である。

【大西委員】

テーマになるキャッチフレーズは思いつかないが、核となる金谷山をとおして、ファミリーが年間をとおして集えるような場所にしていったほうがいいのではないか。今、レルヒ祭では、高田西小学校が金谷山太鼓を演奏したり、イベントをや

ったり、屋台が出たりして、そこそこの人が参加している。

先日、高田西小学校で民生委員児童委員という会議があったときに、別件として金谷山について話をさせていただいた。高田西小は、6年生から1年生までの縦割りの班で、金谷山に行って遊ぶことがあるので小学生は縁が深い。「例えば、親子でお花を植えたりするのはどう思われますか」と聞いたら、「ぜひやりたい」とおっしゃっていて、今、不登校の子もいるし、違う教室で授業を受けている子もいる、何かそういう楽しいことがあると、皆さん出席するということがあって、お花を植えることによって親子の交流ができるのではないかというふうに思うし、先ほど小竹委員がおっしゃったように、都会の子が恨ましがるぐらいの自然とかホタルとかある。そういうところに家族で楽しみながら、心身ともに鍛えていける場所になって、それが年間行事として何らかの形で開催されて、人が集えるような形をとったらどうか。お金はかかるかもしれないが、例えば、BMXをやっているとしたら、国際級かそこそこのレベルにしていったり、目指すならば何かてっぺんを目指しながらやるのは大事かと思う。何か一つでもそういうのがあればいいかなと思う。

【大瀧委員】

金谷山を中心にして金谷区の一体化を考えると、親子3代とよく言うが、親子3代経過しないと自分たちの金谷山という認識はなかなか難しい。旧町村の考え方方が残っている。例えば、旧和田村の人は、金谷山と言っても旧金谷村の物だという感じであろう。

【村田会長】

金谷区は、28の町内会がある。その中に中通町も金谷区である。寺町1から3丁目は高田区で金谷区ではない。だから中通町はなぜ金谷区なのかと、町内会長が言うこともある。

【宮越委員】

中通町は、もともとは「下中田」だった。要するに、町名が変わったからである。大和もそうだが、中通町は団地ができて町の形になったので中通町となった。もともと地籍は下中田である。仲町1丁目、2丁目も実は150年も遡れば、大貫だった。新しいまちになって、今住んでいる人間は、仲町1丁目、寺町1丁目は、当た

り前にまちになっている。あれは時間をかけて高田区に入れたが、あれも本当は金谷区である。

【村田会長】

そういうルーツまでやつたら時間もかかるし、その区割り云々という話には持つていけないが、考えさせられることだと理解した。

【長副会長】

自主的審議事項の時に使うテーマとしては、先ほど宮越委員がおっしゃったテーマでいいと思う。何かサブタイトル的なもので、小竹委員が言ったような、金谷区遊び場計画みたいな感じのものがついていれば、実質は動きやすいのかなと思う。テーマを決めるならそんな感じかなと思った。

【阿部副会長】

私も以前、観光振興課にいたので、そういう部分でいろいろこの金谷山と関わった部分がある。基本的な上越市の観光の在り方については、皆さんもご存じのとおり、春日山にシフトされている。それをいかに金谷区のほうで、金谷山を中心とした観光も含めた施設整備、ハード的なもの、そしてまたソフト的な面、そういう部分で発信をしていくかということが、これから求められる部分だろうなと思っている。そういう視点からすれば、先ほど宮越委員が言われたようなテーマが一番いいのかなと思う。その中で、いろいろな分野が枝分かれしてくるわけだが、そういうところで住み分けをしながら、ハード、ソフトをそれぞれ整理して、組織的な部分はどうするのだといったときに、この資料にあるいろいろな振興協議会をはじめ、いろいろな団体があるので、その辺の横のネットワークを作りながら、実動部隊を作っていくという形が理想的ではないか。予算的な部分もそれぞれ出てくると思うが、それはその辺の骨子を一応作った中でどれだけの予算が必要なのかそこで積算されてくると思うから、そこで行政を動かしていくという話になってくると思うので、まず大きなテーマとして、何を目指すのか、その辺のテーマの設定を今言われたような話の中でセッティングしていくという形で進んだらどうかと思う。

【村田会長】

事務局、この中から決めるということになるのか。それともこれを総合的に見た

感じで議論していくのか。今日ここでテーマをこれだというふうにまとめたほうがいいのか。

【小池副所長】

今日皆さんから、いろいろなワードが出てきたので、それをまとめて次回に持ち越したい。

【小林委員】

カルタについてだが、他の団体が上越市内の小学校のカルタを作るというクラウドファンディングが始まったようだ。我々も急がないと二番煎じだと思われるので、やるのであれば春にめがけて、例えば、学校とか地域にアナウンスをするような感じとかで、できないか。そんな大変な仕事では多分ないと思う。やらないのだったらもう無しにするし、ぜひやろうということになれば、金谷山のほうは、かなり時間もかかるてくるテーマだと思うので、カルタだけは分科会みたいなものを作って、ちょっとずつ始めることが必要なタイミングかと思う。

金谷区に関わる子どもたちから、地域の住民も含めて大瀧委員もおっしゃられたように、金谷区のことを広くまとめていただく意味も含めて、こういうものがきっかけになるのではないかというのもあるので、やるのであれば早めがいいかなと思う。

【村田会長】

小林委員の思いというか発想は、これをやるにはどういうふうな形が望ましいのか。

【小林委員】

小・中・高校と各家庭に対して、金谷区の残したい宝だったり、地域の活動だったり、そういうものをキーワードにした50音の読み札を募集する。それを我々中で選んで発表する。

【村田会長】

具体的に学校はどこか。

【小林委員】

金谷区に関わる学校、全部にお願いはする。

【村田会長】

小学校は、黒田小、高田西小、飯小。中学は、城東中、城西中、城北中。高校はよいのか。

【小林委員】

それは一般の家庭から入れてもらってもいいのか分からぬし、入れても別に変わらないと思う。地域のことを知つてもらうという学習の要素にもなると思う

【村田会長】

28町内会に声かけするということになるのか。

【小林委員】

そのほうが公平だと思う。読み札が決まつたら、次はその読み札に対した絵とか写真とかイラストとかをまた募集をかけて、完全手作りで、子どもたちの作った句で、子どもたちが描いた絵とか、それにできればその子供の名前とか思い出になるようなものを全部載せて作れれば一番よい。

【村田会長】

具体的にそれを実行する団体として、金谷区地域協議会ではダメだと思う。

【小林委員】

実行部隊としてどこかに一緒に協力をしていただくしかないと思う。なんとなく観光協会とかにやっていただければなと思っている。

【吉野委員】

そういう意味では、私は高田西小のPTA会長をやって、今、城東中のPTA会長をやっているのだが、市PTA連合会がエリアごとに分かれているので、そこに呼びかけると一気に発信ということに近づく可能性がある。そこに学生だけではない一般の方も参加されたらよいのではないかと思った。

【小林委員】

PTA側から攻めるか、学校運営協議会とかもあるが、学校側は地域と関わるネタを探しているので、逆にありがたいテーマではないかと思う。早い段階から情報を入れておけば、学校側もそれなりの体制で、例えば、絵なんかは夏休みの宿題ではないけれど、そういったイメージで作ってくれる子どももいるかもしれないし、

とにかく地元のことを学ぶ、調べる、新たなことも吸収できるというきっかけには一番いいアイテムではないかと思う。

【宮越委員】

このカルタは、従来の紙ベースのカルタをイメージしているのか。上越カルタというのがあったのを覚えているか。確か農協が中心になって、30年くらい前に市内の全小学校等に配って、使ってもらうように普及していた。その時、行政は賛同していたが関わっていなかった。そういうのを普及するのは難しいというのが教育委員会の考え方で、それがいつの間にか消えたのは、実は時代の流れで子どもたちがカルタに見向きもしなくなっていたから。上越カルタは探せばどこかに埋もれていると思う。合併した区の中でも、私の記憶で確かに板倉にあったと思う。だから、作ることは作っても、使われなくて埋もれている。それはなぜかというと紙ベースだからだ。今、紙のカルタを正月などに自宅でやらないのではないか。自分が子どもの頃はしていたが、これからやるのは子どもなので、紙ベースがいいのかと思う。

カルタを否定するわけではなく、紙ベースではなくて、例えば、SNS版でコンピュータの上で読み上げるとか、そういう工夫が多少あって、要するに作る以上は普及を前提、または使ってもらうことを前提ということを考えると、そういうことも考えながらのほうがいいかなと思う。

もう一つ気になったのは、地域協議会というのは市の諮問機関だが、そこからの声掛けでカルタを作ると言ってしまうと、その後どうなったというのは必ずついてくる。そうすると、変にしほんでしまうと無責任。また、今度別のことがあったときに、ちょっと信用性がというその懸念はあるかなと思う。

【小林委員】

ご指摘いただいたように、やはり地域協議会が仕切ってということではなく、それも含めて、どこかが主体となって手を上げるべきである。地域独自の予算を使うとしても自己財源も必要となってくるので、その辺も含めて誰かと一緒にやらないとこれはできなくなってしまう。

子どもたちからすると、自分の句が形になったとか、自分の絵が形になったというのは、すごく宝物なのではないかなという気がする。ただ与えられたものではな

くて、自分たちが作ったものが形になったという喜びというのは一つあるのかなと
いう気がする。

【宮越委員】

交通標語などは、大昔は作者の名前を入れていた。ところが、選ばれた人のもの
でしかなくなるので、子ども全体に広がらないという判断で名前を出さなくなつた。
だから、今の小・中・高校は全部それを徹底している。誰が選ばれたかというのは
教室内で表彰するくらいである。

【村田会長】

以前は、名前があつたか。

【宮越委員】

名前が出ていたが、なくなった。名前を上げるとあの子がと。やはり頑張ったけ
れど選ばれなかつた子もいる。それは上手かもしれないけれど、教育上よろしくな
いというので、今、どこの同校の小学校も名前をいれていない。

【村田会長】

カルタも無記名になるということか。

【小林委員】

名前を出してもよい人は出し、ペンネームでもよいかもしない。

【大瀧委員】

金谷地区一体化をいろいろな機会に、私たちのこういう地域協議会だけでなく、
一般の大人もいろいろ考えてもらいたい。

【村田会長】

学校等に相談する場合には、学校のPTAとか、そういうところと慎重に相談し
て、不公平にならないような取り組みをしなければいけない。テーマは、いろいろ
な意見をいただきて案がたくさん出ているが、そのためにまず何を取り組もうか。
どこかの新聞にカルタのことが出ていたのか。

【小林委員】

上越市の小学校のカルタを作つて、例えば、高田西小だったら金谷山太鼓がどう
という、その学校の特色みたいなものを上越市内の全部の小学校のカルタを作ると

いうのがあった。私はその主体の団体は存じ上げないのだが。

【村田会長】

それは社会教育課の関係か。

【小林委員】

民間団体である。120万円のクラウドファンディングを組んでいた。達成しなかつたらやらないのか、未達成でもやるのかはわからない。

【村田会長】

その費用の捻出はどうするのか。

【小林委員】

クラウドファンディングである。

【村田会長】

そういう取り組み方もあるということか。私たちは今、そういうような話も出ているし、金谷山を活性化するための一つの方法として金谷区カルタを作ったらどうだというプランを小林委員からもらっている。それについて具体的に宮越委員も言われたようなこともあるし、討議をしていくということを皆様方に諮って、次回以降協議を進めていければいいのかなと思う。金谷区カルタにまず取り組もうという話の方向性になっているので、やることを前提として途中でUターンすることになってしまふかもしれないが、どちらにしても協議しないと、先の話が見えてこないので次回から金谷区を活性化するための一つの順番として、金谷区カルタをどのようにして取り組んだらいいのか皆さんと意見交換をして、進めていければいいのかなと思うが、皆さん、それでよろしいか。

【吉野委員】

私は、皆さんに注目していただく意味では、そういったことで地域を巻き込んで、もう一度金谷山に目を向けるという一つのフックだと思っている。何もやらないよりは、自分の絵がというのは夢があるかなということで、予算的な部分で可能であるならば、そのカルタが実際に実用性があるかどうかというのは置いておいて、ここに何かを始めるのだというためのアクションの一つとして始めてよいのではないか。

(賛同の声あり)

【白石委員】

カルタは標語を作つて発表するというだけになつて、結局カルタ自身は時代遅れにならぬか。

【小林委員】

逆に今、レトロが流行つてゐると思う。

【村田会長】

大きいカルタにするとか。

【小林委員】

クラウドファンディングで作るカルタは、こんなでっかい感じのイメージである。

【村田会長】

昔の小さいカルタではないのか。

【宮越委員】

今の小学生はスマホで遊んでゐる。二次元の電子コードがある。ああいうのにするのはどうか。

【小林委員】

なるほど。二次元コードがついていて、そこにかざしたらその写真が出るとか、そういうのも面白いかも知れない。

【宮越委員】

自分の孫を見ていると、花札とかトランプとか見向きもしないし、興味を示さない。それをやるなら、ユーチューブを見ている。今の子はそうなるのではないか。

【村田会長】

使ってもらえるようにする方法もあるし、金谷区の特産品の一つにして、お土産品になるのか、そういうことにもつながるかもしれない。

【小林委員】

観光地に行くと実はカルタはお土産に結構あって、最近私が買ったのは福井県の魚をベースにしたカルタである。興味がある人しか買わないのかもしれないが。あと、有名なのは群馬県の上毛カルタで、あれは群馬県民全員が暗記されているそ

だ。究極、金谷区出身の人だったら全部言えるぐらいの思いがこもったようなものができるば一番いいかなと思う。

【村田会長】

町内会長にまずご賛同の力をもらわないといけない。それは進める意味で、振興協議会もあるし、地区町内会長会も協働参画してもらうとか、それはこれからの取り組み方である。

【小林委員】

運営母体が一つではなくて、いろいろなところに協賛していただいて、ちょっとずつお金を出していただくのもいいかも知れない。

【村田会長】

かるたを作る会とかいう名前にしてもらったらどうか。

【小竹委員】

壮大な金谷山計画の一つの具体案として、他の周りを巻き込むという意味では、すごくいいと思う。

【村田会長】

委員の3分の2以上のご賛同を得た。副会長お二人はいかがか。

【長副会長】

やってみてどうなるかはわからないが、いいと思う。

【村田会長】

では、取り組むという前提で、次回以降の会議で検討したいと思う。

以上で、次第2自主的な審議（1）自主的審議事項についてを終了する。

次に、次第3 その他に入る。

事務局に説明を求める。

【小池副所長】

- ・公の施設の使用料・減免等に関するアンケートについて説明
- ・第8回協議会：令和8年2月4日（水）午後6時30分から 金谷地区公民館

【村田会長】

他に皆さんから何かあるか。

【吉野委員】

今回のことに関して、「金谷山通年観光活性化プロジェクト」という企画書を作った。その中で先ほど宮越委員が言ったようなジャンプ台、いわゆるマーケティングの用語でポイントアクションという言葉があるが、必要性があるかないかではなく、それがシンボルになるかならないかというところが必要だったりする。すでに5人ぐらいの市議会議員ともお話をしたが、どの議員も、今、金谷山の通年観光に関して表向きは興味があるようだ。

今日一つのスキームを紹介したい。杉ノ原の関係者とも話しているが、投資が入らないと盛り上がらないというのは確実だと思う。大きい投資を集める必要がある。先ほど地域団体という話があったが、例えば、キッザニア東京のように各企業が集まってくるプラットフォームにする必要があると思っている。その中で中小企業に市でお金を払えるのかといったら、血税だから使い道に多分いろいろ問題になってくるので、今、内閣府のインターネットのページに出ているが、ふるさと納税の企業版があって、好きな事業に充てられるというのがある。

例えば、ジャンプ台のマットを貼ると言ったら、今だったらスポーツ関連企業がスノーボード産業に盛り上がっているから、そういう企業に貼ってもらって、金谷ヒルと書いてあるところを○○というプロモーションの場に変えることによって、今まで何に使われていたお金かわからないのに、企業は自分たちの目的のために使えるというお金が今できている。

そういう意味では、ワインワインの関係になる。例えば、前橋のサッカースタジアムは企業が自分たちで納めていた地方税をそこに使ってくれということで作られたそうだ。また、仙台の駅前の立体交差点で、立体の歩道橋があるが、ある企業が地方税を納めていた中の数十億円を使って全部やつたらしい。そういうスキームがまだある。

それをこのプラットフォームにフィットさせることによって、多業種のものを巻き込んでいく、他のネットワークとリンクしていくということをしないと、絶対私は変われないと思っている。ある広告代理店の担当と昨日接触したが、そのお話を聞いて説明を受けてきた。新潟県だったら佐渡の文化を継承しようという提案があ

るが、残念ながらまだ1円も集まっていないという。やはり、企業から見てメリットのある提案でないとそれは達成しない。それが本当に面白くて、企業にとってもメリットがあってマーケティング、いわゆる広まっていくのと相乗効果の流れに乗れるというものであれば、企業も乗りやすいというスキームを一つ見つけてきた。そういう角度でも、金谷山にいろいろな力を注力していくようなことをこれから皆さんでアイディアを出しあえていけたら嬉しいなと思って、今、提案させていただいた。

【村田会長】

今度、皆さんに資料として提供してほしい。

【小竹委員】

企業版ふるさと納税だが、上越市にも確かに企業版のふるさと納税のカテゴライズがいくつかあって、まちづくりったり、教育だったり、そういうカテゴライズはあるが、金谷山のためにというピンポイントの使い方ができないと思う。今すごく曖昧な状態で、今後、上越市もこの企業側ふるさと納税におそらく力を入れてくるのではないかと思っているので、いい方向に進めば非常にありだと思う。

【吉野委員】

私は、スノーボード関係でスポーツ関連企業と繋がっているので、そこに先に話を持ちかけて、市に頼るのではなくて、自分たちでプランを作って営業をかけてそれに対して賛同を得れば、それが市の形としてなるということもお聞きしてきたので、面白いプランがあってリンクする企業があるならば、最初にこちらから動くということも可能だということを伺ってきた。これは内閣府の担当されている代理店から説明を受けている。

【小林委員】

企業側から、こういう名目でなかったら出さないと行政が言われたら、行政も分かりましたとなるのではないか。

【吉野委員】

こういうふうに使ってくださいというのを企業が決めたら、市の方で金谷山でこういうプランがあると伝える。そうすると代理店が「これにお金を出しませんか」

と紹介するのがいくつもある。日本中に沢山ある中でポンと上がれば、そこで元々できている話が現実化していく。そうなると市も従わざるを得ないし、これは税金を使うことではなく、市民にお金が還元されることだから、達成しやすいということになるから、そこをなんとか切り開けていければと思った。

【宮越委員】

市は教育、スポーツ、文化という大括りの分野でしか決めていない。なぜかというと、例えば、スポーツ施設だったら金谷もあるかもしれない、板倉もある、あちこちにある。不公平が生じるのでピンポイントでは決められない。要するに分野としてはここで受け入れますよということができる所以、そうした時に、例えば企業が教育運営やスポーツ施設の整備で整備する。ただ、その目的は金谷山で言つても、市の行政的な立場から言うと難しいと思う。スポーツの納税として使わせてもらうとしか言わない。今度その使い道を公開されるので、議会で予算のどこにつけるかというのが出てくる。ふるさと納税は一般財源になるから、色は見えないが経緯から言うとその目的でという申し入れがあつてそこに予算をつける。そうすると議会は通常であれば議決はできないと思う。

例えば、市民で1億、2億寄付する人がいるとする。その人がこの施設に使ってくれという寄付の場合は、上手に話をしてお断りしているはずだ。特定の寄付でどこかの施設を修繕するというのは、行政の公平性からやってはいけない。それは企業であつても個人であつても一緒である。

【吉野委員】

いろいろなマーケティングに携わる、インスタグラムで多数のフォロワーを持っている人と、一緒にイベントをやるから打ち合わせをしたが、正直、もう私が最先端を行っていたつもりだったが、ちょっと離れたらもう時代遅れであると痛感させられて、本当に勉強しないといけないと思った。ものすごいスピードで世の中が変化しているというのも、市も変わっていかなくてはいけないと思うし、そういうところからも、皆さんでスピード感を持ってマーケティングをやっていかないと、とても追いつけるものではないと思っている。みんなで勉強していけたらいいなと思っています。現状難しいかもしれないが今変わろうとしている。それは期待できる

ことだと思う。

【村田会長】

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

総合政策部 地域政策課 南部まちづくりセンター

TEL : 025-522-8831 (直通)

E-mail : nanbu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせて御覧ください。